2026 年 8 月　最近の科学班活動のピックアップ

今回の科学班活動では、学生から「セミの抜け殻の放射能を測ってみたい」というアイデアが出たことをきっかけに、セミの抜け殻とその周辺の土壌を採取しました。一本の木からできるだけ多くの抜け殻を集め、土壌中の放射性セシウムとの関係を比較することを目指しましたが、都市部とは異なり、抜け殻の密度は低く、十分な数を集めるのはなかなか大変でした。それでも、3 か所で採取することができ、少量ながら測定用の試料を準備しました。どのような結果が得られるのか、測定が楽しみです。

また、科学班では現在、汚染土壌を用いたアサガオの栽培にも取り組んでいます。「日本人だけでなく、世界中の人々に親しまれているアサガオを研究対象にすることで、放射線にもっと関心を持ってもらえるのではないか」という学生の思いから始まった取り組みです。身近な花を題材に、土壌中の放射性セシウムが植物にどのように移行するのかを調べていきます。

今回は、岐阜県内の高校で生物を担当する先生も科学班に参加しました。虫が大好きな先生で、大熊町で東北固有の昆虫を探すなど、自然科学の新たな視点からフィールドを楽しみました。そして今回、驚きの発見もありました。あるコリヤナギの木を調べていると、なんと大量のノコギリクワガタを発見！予想外の出会いに、科学班一同びっくりしました。大熊町には、まだまだ私たちが知らない自然の魅力があるようです。さらに、役場の裏山ではナイトトラップも実施。夜の大熊町には、昼間とはまた違った生き物たちが姿を見せてくれました。放射線の測定から昆虫や植物の観察まで、フィールドに出てみると新しい「問い」や「発見」が次々と生まれます。科学班では、これからも大熊町をフィールドに、学生自身の興味や疑問を出発点とした探究活動を続けていきます。









追記：科学班では大熊町の地極沢という地区で畑を作ることにしました。元は田んぼだったところで、15 年近くも経っているので、簡単ではありません。この場所は除染されていません。ここで、野菜や果樹を苗から育ててみようと思います。



